

高等学校における英作文及び自己評価力育成  
のための学習ポートフォリオ活用

日本大学大学院  
博士課程前期 柳谷 孝一  
英米文化学会 第162回例会(オンライン)  
令和2年11月7日

## 発表の構成

- 1 はじめに
- 2 研究の目的
- 3 先行研究
- 4 調査方法
- 5 リサーチクエスチョン
- 6 結果・考察
- 7 まとめ(結論・教育的示唆)
- 8 今後の課題

# 1. はじめに

平成30年度公示の新学習指導要領英語編において、さらなる「書く」活動の充実が求められるようになった

- 発信力のさらなる向上を目指す
- 大学入試改革への対応も視野

**外国語教育の抜本的強化のイメージ**

平成29年11月13日  
教科課程部会資料より引用

**現状**

- ・学年が上がるにつれて意欲に課題
- ・学校種間の接続が不十分

**改善・充実**

英検準2級程度以上の生徒 36.4% (目標50%)

- ・学習意欲、発信力に課題
- ・言語活動が十分でない

英検3級程度以上の生徒 36.1% (目標50%)

- ・学習意欲、積極性の向上
- ・言語活動が十分でない

年間35単位時間 (週1コマ程度)

- ・読み書きに対する意欲
- ・音声から文字への接続に課題がある

「何が出来るようになるか」という観点から、国際基準(CEFR<sup>※</sup>)を参考に、小・中・高等学校を通じた5つの領域(「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り・発表)」「書くこと」)別の目標を設定

- ・5領域を総合的に扱う科目群として「英語コミュニケーション I・II・III」を、発信力を高める科目群として「論理・表現 I・II・III」を設定
- ・授業は外国語で行うことを基本とする(前回改訂より)

年間140単位時間(週4コマ程度)

- ・互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な活動を重視
- ・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを実際に活用する言語活動を充実
- ・授業は外国語で行うことを基本とする

**〇5・6年(教科型) 年間70単位時間(週2コマ程度)**

- ・段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
- ・指導の系統性を確保

15分程度の短時間学習の活用等を  
含めた弾力的な時間割編成も可能

**〇3・4年(活動型) 年間35単位時間(週1コマ程度)**

- ・「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」を中心とする
- ・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

※CEFR：欧州評議会 (Council of Europe) が策定する、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通言語枠を指す。英検との対応は日本英語検定協会が公表するデータによる。

『中高の英語指導に関する実態調査2015  
ダイジェスト版』ベネッセ教育総合研究所 (p7, 2016)

「生徒が自分の考えを英語で表現する機会を作る」

「とても重要だ」と回答 66.8%

「十分に実行している」と回答 9.9%

→英語で自分の考えを表現する機会を作ることは大切だと認識しながら、その実行は不十分である。  
依然として、「知識注入型」が主流か？

5

### 高等学校英語教員への「書く」活動 についてのアンケート調査

#### ・目的

高等学校英語教員を対象に「書く」活動の頻度や、振り返り活動の実施状況などについて調査を施行。

調査責任者：柳谷 孝一

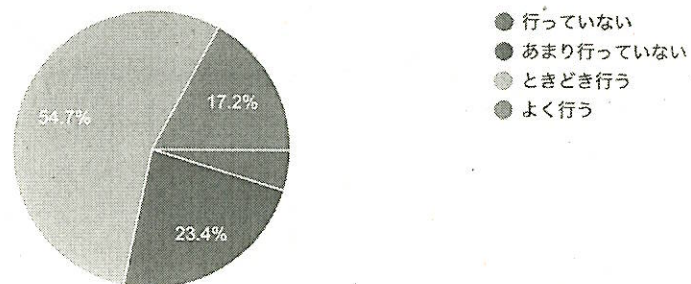
6

## 高等学校英語教員への「書く」活動 についてのアンケート調査

- ・ 時期 本調査2020年1月から2月
- ・ 方法 インターネット
- ・ 対象 高等学校英語教員 (64名)
- ・ 質問項目  
「書く」活動の頻度、振り返りの実施状況など

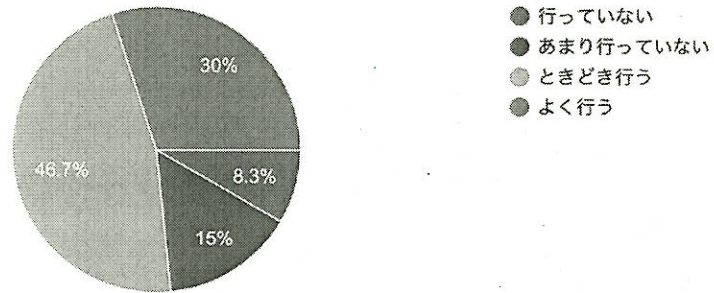
7

Q3 「コミュニケーション英語」でのライティング活動の頻度  
64件の回答



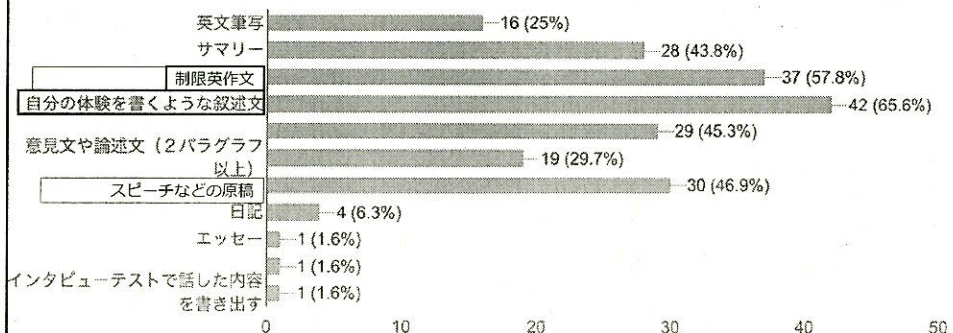
8

Q4 「英語表現」でのライティング活動の頻度  
60件の回答



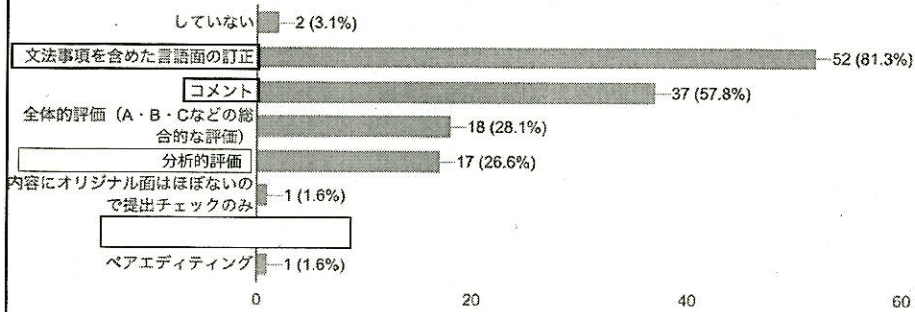
9

Q7 英語の授業内で実施するライティング活動は何ですか？（複数回答可）  
64件の回答



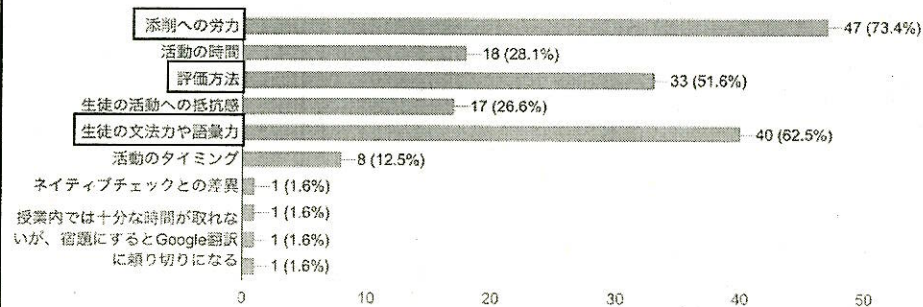
10

Q12 生徒のライティングに対して、どのようなフィードバックをしていますか？（複数回答可）  
64件の回答



11

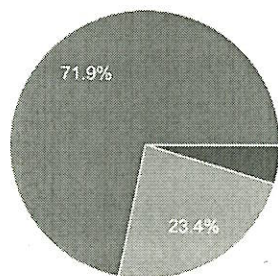
Q8  
生徒が、まとまった英文を書くことにおいて、ご自身の指導上の課題は何ですか？（複数回答可）  
64件の回答



12

Q11 生徒が自分自身のライティングを振り返ることは有効だと思いますか？

64 件の回答

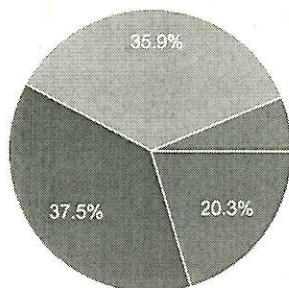


- 思わない
- どちらかといえば思わない
- どちらかといえば思う
- 思う

13

Q10 生徒が自分自身のライティング作品を振り返る時間を設定していますか？

64 件の回答



- 設定していない
- あまり設定していない
- ときどき設定している
- よく設定している

14

## 教員の「書く」活動への指導上の課題

- ①添削への労力
- ②生徒の語彙力や文法力の欠如
- ③評価方法

→フィードバックへの課題が大きい。  
生徒が自己省察する機会を作ることによって教員の負担を減らせるのではないか。

15

## 学習ポートフォリオの活用

●峯石(2002) 学習ポートフォリオは、学習者の自己省察を促し、方略的なアプローチをとることが出来る自律した英語学習者を育成するために有効である

●Smolen他(1995) ポートフォリオは、学習者の自己評価能力やメタ認知能力を高める

→本研究では、ポートフォリオの使用が自己評価能力と英作文能力について良い効果を与えるかを検証する。

16



## 2. 研究の目的

学習ポートフォリオの使用が自己評価能力と英作文能力について良い効果を与えるかを検証する。

17

## 3. 先行研究

大学1年生のリーディング科目のクラスにおいて、学習ポートフォリオ導入し、授業内外での学習記録を記録させた。結果として、学習者は、学習ポートフォリオの活用について好意的に捉えていた(中竹・櫻井, 2016)。

日本人大学生を対象に、英語授業内でポートフォリオを活用し、自己省察をさせた。結果として、学習ポートフォリオが学習意欲・英作文力の育成に有効であることが示された(Santos, 1997)。

18

## 4. 調査方法

・対象：神奈川県某公立高校

(生徒の7割以上が大学進学 (H30年度))

第3学年 コミュニケーション英語Ⅲ受講者 (79名)

・時期：2019 9月～2月

19

### ●ポートフォリオの構成

#### ①英作文 (5回分)

\* 授業内で扱った題材に関連したテーマの論証文

\* 時間制限：20分

#### ②自己評価・教員評価

\* 分析的ルーブリック (語彙・内容・構造・正確さ)

#### ③記述での振り返り

20

## TOPIC

① College students should learn not only English but also another foreign language.

② Some people say that political correctness is a good idea.

Do you agree with the idea?

③ Online education is becoming a popular choice for many students nowadays.

Which do you think is better to learn in a classroom or to learn at home over the Internet?

④ Should children with disabilities, such as deafness and blindness, be taught in the separate schools?

⑤ Do you think that English should be used instead of minor language?

## 本研究で使用する分析的ルーブリック

得点	語彙	内容	構造	正確さ
4	文脈に合わせて多様な語彙や表現を使って文がかけられている。	内容に一貫性があり、説得力のある例や理由づけによって深められている。	主題文・支持文・結論文が明示され、結論文が主題文の言い換えとなっているなど工夫がある。	内容伝達に支障をきたす誤りがない。
3	多様な語彙や表現を使って文がかけられている。	内容に一貫性があり、例・理由などが述べられている。	主題文・支持文・結論文が明示され、まとまっている。	内容伝達に支障をきたす誤りが1つある。
2	簡単な表現や語彙を使って文がかけられている。	内容に一貫性がある。	主題文・支持文が書かれている。	内容伝達に支障をきたす誤りが2つある。
1	繰り返しの表現や語彙が多い。	内容に一貫性がない。	主題文と支持文が不明瞭である。	内容伝達に支障をきたす誤りが3つ以上ある。

## ●分析手法

- ① 英作文テスト（全5回）の第1回と第5回における点数（語彙・内容・構造・正確さ）の伸びについて有意な差が見られるかどうかについて、対応のあるt検定を用いて分析した。
- ② 自己評価と教員評価の相関関係を見るためにピアソンの積率相関係数で2つの評価の関係性を調べた。

23

## ●分析手法

- ③ 英作文の統語的複雑さについて、MLU (mean length of utterance) に基づき分析した。
- ④ 熟達度別（上・中・下）の英作文テストの合計点と各観点別の伸びについて有意な差が見られるかどうかについて、対応のあるt検定を用いて分析した。

24

## 5. リサーチクエスチョン

RQ① 学習ポートフォリオを使用し、自己省察を行うことで言語的側面の向上が見られるか？

RQ② ルーブリックを使用しての自己評価と教員評価に係り性は見られるか？

RQ③ 学習者は、学習ポートフォリオの使用への有用感を感じるのか？

25

## 6. 結果 (RQ①)

分析的ルーブリック (語彙・内容・構造・正確さ)

	語彙	内容	構造	正確さ
4	文脈に合わせて多様な語彙や表現を使って文がかけている。	内容に一貫性があり、説得力のある例や理由づけによって深められている。	主題文・支持文・結論文が明示され、結論文が主題文の言い換えとなっているなど工夫がある。	内容伝達に支障をきたす誤りが無い。
3	多様な語彙や表現を使って文がかけている。	内容に一貫性があり、例・理由などが述べられている。	主題文・支持文・結論文が明示され、まとまっている。	内容伝達に支障をきたす誤りが1つある。
2	簡単な表現や語彙を使って文がかけている。	内容に一貫性がある。	主題文・支持文が書かれている。	内容伝達に支障をきたす誤りが2つある。
1	繰り返しの表現や語彙が多い。	内容に一貫性がない。	主題文と支持文が不明瞭である。	内容伝達に支障をきたす誤りが3つ以上ある。

26

## 英作文の総合点(教員評価)

	平均点	標準偏差	平均語数
第1回	11.39	2.86	79.0
第2回	10.67	2.65	65.2
第3回	11.15	2.81	82.7
第4回	10.99	2.97	80.6
第5回	12.37	2.31	83.8

\* 得点の合計点は、各観点(語彙・内容・構造・正確さ) 4点満点の16点。

27

## 英作文テスト 総合点の伸びt検定結果

	平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差	t値	p値
第1回	11.39	8.159	2.856	0.330	3.1429	0.0024**
第5回	12.37	5.372	2.318	0.268		

n=75, 自由度=74

\*\* :  $p < 0.01$ 

第1回と第5回に実施した英作文の総合点の差についてt検定を行ったところ、有意な差があり、第1回に比べて第5回のほうがテストの得点が有意に伸びていることが分かった

28

## 観点別点数の伸びt検定結果

		平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差	t値	p値
語彙	第1回	2.853	0.559	0.748	0.086	1.396	0.167
	第5回	2.987	0.392	0.626	0.072		
内容	第1回	2.800	0.649	0.805	0.093	4.44	0.001** $p < 0.01$
	第5回	3.213	0.494	0.703	0.081		
構造	第1回	2.973	0.432	0.657	0.076	1.520	0.132
	第5回	3.107	0.394	0.628	0.072		
正確さ	第1回	2.760	1.185	1.089	0.126	2.555	0.012* $p < 0.05$
	第5回	3.067	0.658	0.811	0.094		

\* :  $p < 0.05$  \*\* :  $p < 0.01$

「内容」の得点が、第1回に比べて第5回のテストの得点が0.01%水準で有意に伸びていることが分かった。また、「正確さ」の得点が第1回に比べて第5回のほうがテストの得点が0.05%水準で有意に伸びていることが分かった。

29

## 6. 考察 (RQ①)

- ・ 「内容」と「正確さ」の観点における得点の向上
  - 第1回と第5回の得点に有意差あり
  - 自己省察を繰り返すことで、客観的に振り返れるようになった?

30

## 6. 結果・考察 (RQ②)

RQ②学習ポートフォリオを使用することで、  
自己評価と教員評価に相関関係が見られるか？

31

合計点における第1回と第5回の自己評価と教員評価の相関関係

英作文テストを受験した参加者75人 ( $n=75$ ) の第1回の自己評価と教員評価の得点の関係をピアソンの相関係数で調べた結果は、 $r=0.59$ であり、無相関の検定は $p<0.01$ で有意であった。

第5回の自己評価と教員評価の得点の関係をピアソンの相関係数で調べた結果は、 $r=0.63$ であり、無相関の検定は $p<0.01$ で有意であった。

32



## 観点別の自己評価と教員評価の相関関係

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
語彙	0.512	0.418	0.472	0.586	0.634
内容	0.384	0.500	0.477	0.558	0.522
構造	0.481	0.566	0.386	0.503	0.552
正確さ	0.387	0.278	0.448	0.405	0.551

「各観点（語彙・内容・構造・正確さ）」の自己評価と教員評価の相関関係をピアソンの積率相関係数で調べた。結果として、語彙は第5回で0.634と中程度の相関が見られた。内容は第1回では0.384であったが、第4回では0.558の中程度の相関が見られた。構造は第1回から第5回まで、大きな変化は見られなかった。正確さは第1回と第2回で弱い相関が見られたが、第5回では0.551の中程度の相関が見られた。

33

## 6. 考察 (RQ②)

RQ②学習ポートフォリオを使用することで、自己評価と教員評価に相関関係が見られるか？

- ・ 第1回と第5回の合計点に中程度の相関が見られた
- ・ 第1回では弱い相関が見られた「内容」と「正確さ」において、第5回で中程度の相関が見られた。

→ポートフォリオで過去の作品を振り返ることで自分自身の英作文上の文法や構文の誤りに気づきやすくなった？

34

## ⑥. 結果・考察 (RQ③)

RQ③ 学習者は、学習ポートフォリオの使用への有用感を感じるのか？

学習ポートフォリオ使用についてのアンケート調査

- ・時期 2020年2月
- ・対象 コミュニケーション英語Ⅲ 受講者 (79名)
- ・5段階評価 (8問)、記述式 (3問)

35

### 学習ポートフォリオについてのアンケート

1. ポートフォリオは、「書く」能力の向上に役に立ったと思う。
2. ポートフォリオは、自分自身の作品の振り返りに役に立ったと思う。
3. ポートフォリオで、「書く」能力 (語彙・内容・構造・正確さ) の変化をみるために役に立ったと思う。
4. 自分で自分の進歩を評価することは、意欲・自信につながると思う。
5. 今後も、ポートフォリオを活用したいと思う。
6. トピックの難易度で、書くことに影響があったと思う。
7. 教員の評価 (語彙・内容・構造・正確さ) は妥当だと思う。
8. 自己評価する力は以前よりも向上したと思う。

各質問の尺度範囲は「5:強くそう思う～1:全くそう思わない」である。

36

## 5段階尺度数を3段階尺度に変換し集計した結果

項目	項目内容	平均値 (5段階尺度)	5段階尺度数を3段階尺度 に変換し集計した結果		
			肯定的	中立	否定的
1	「書く」能力の向上に有益	4.61	70	5	0
2	振り返りに有益	4.39	65	10	0
3	「書く」能力（語彙・内容・構造・正確さ）の 変化をみるために有益	4.40	67	8	0
4	意欲・自信につながる	4.11	62	10	3
8	自己評価する力は以前よりも向上したか	3.68	44	27	4

37

## 5段階尺度数を3段階尺度に変換し集計した結果

項目	項目内容	平均値 (5段階尺度)	5段階尺度数を3段階尺度 に変換し集計した結果		
			肯定的	中立	否定的
1	「書く」能力の向上に有益	4.61	70	5	0
2	振り返りに有益	4.39	65	10	0
3	「書く」能力（語彙・内容・構造・正確さ）の 変化をみるために有益	4.40	67	8	0
4	意欲・自信につながる	4.11	62	10	3
8	自己評価する力は以前よりも向上したか	3.68	44	27	4

38

●アンケート記述

- ・今までは、返却されたものは捨てていたが、ポートフォリオは見返すことができる。
- ・「前回はこえたい！」と思えることが出来た。
- ・自分の英作文を客観的に見ることが出来る。

39

●アンケート記述

- ・自分と先生の評価だけだと意見の偏りが出る。グループで見せ合い評価し合うべきだ。
- ・個人的には自己評価が難しい。
- ・全体的評価が欲しい。
- ・自分の表現リストを作ったほうが良い。

40

## 学習者の英作文にみる統語的複雑さ

「熟達した学習者ほど算出する1文あたりの語数  
(mean length of utterance: MLU) が多くな  
る」 (Hawkins & Filipovic. 2012)



1文の長さは正確に学習者の熟達度を図る指標  
となりうる。

41

## MLUの推移

	MLU	語数語数	文の平均数	標準偏差
第1回	10.6	79.4	7.6	2.62
第2回	9.9	67.0	6.6	2.24
第3回	11.2	82.1	7.6	2.68
第4回	11.5	79.1	7.2	2.88
第5回	11.2	80.4	7.6	2.16

参考：CEFR・B1レベルのMLU→10.8 (Hawkins & Filipovic.  
2012)

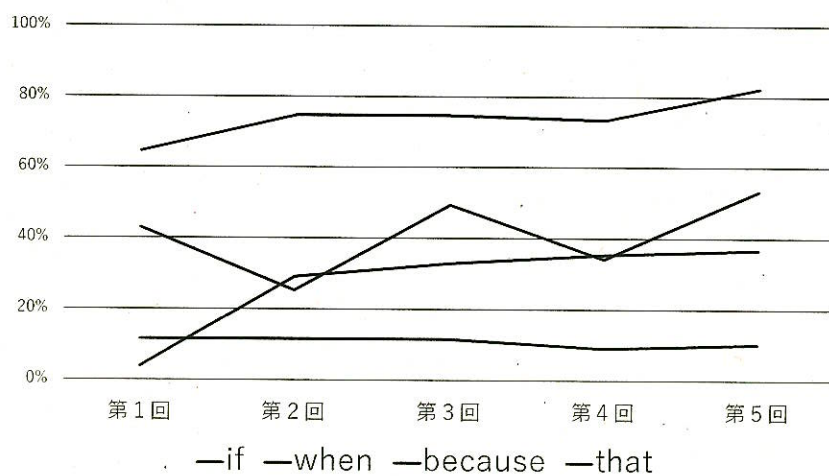
42

## 従属構造の使用状況

	if	when	because	that
第1回	43.0%	11.4%	3.8%	64.6%
第2回	25.3%	11.4%	29.1%	74.7%
第3回	49.4%	11.4%	32.9%	74.7%
第4回	34.2%	8.9%	35.4%	73.4%
第5回	53.2%	10.1%	36.7%	82.3%

43

## 従属構造の使用状況



44

## 教員評価により 3 群に分割して の英作文分析

合計点数および各観点ごとの点数を、第1回の英作文テストをもとに熟達度別に並べ、第1回と第5回で比較した。

熟達度別の第1回と第5回の合計点 (n=75)

		第1回	第5回
熟達度		平均	平均
合計点	上位	14.37	13.33
	中位	11.19	→ 12.92
	下位	7.95	→ 10.55
	総和	11.17	12.27

\*各群の人数：上位群=27人, 中位群=26人, 下位群=22人

45

## 教員評価により 3 群に分割して の英作文分析

		平均	不偏分散	標準偏差	標準誤差	t値	p値
上位群	第1回	14.37	1.627	1.275	0.245	2.563	0.017
	第5回	13.33	4.692	2.166	0.417		
中位群	第1回	11.19	0.722	0.805	0.894	4.39	0.001** $p < 0.01$
	第5回	12.92	2.874	0.703	1.695		
下位群	第1回	7.96	2.045	1.430	0.305	4.56	0.001** $p < 0.01$
	第5回	10.55	4.641	2.154	0.459		

\*\* :  $p < 0.01$

熟達度別で第1回と第5回の点数を比較すると、上位群のみ平均の点数が下がっている。一方、中位群と下位群は点数が上昇している。熟達度ごとに、第1回と第5回の差についてt検定を行ったところ、中位群と下位群に有意な差が見られた。

46

## 教員評価により3群に分割して の英作文分析

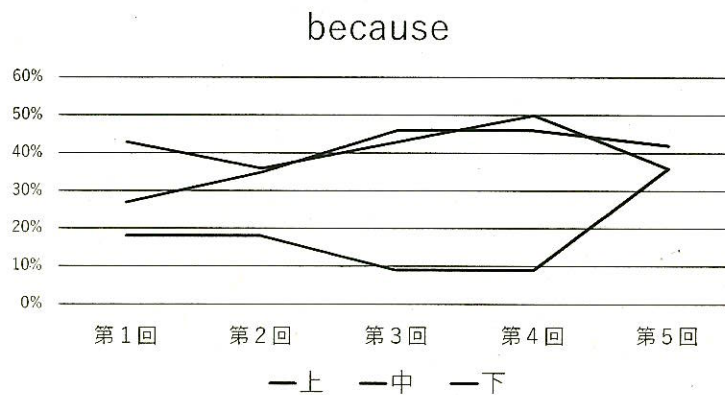
熟達度別のMLU値の比較（単位：人/75人中）

	第1回			第5回		
	語数	文の平均数	MLU数値	語数	文の平均数	MLU数値
上位群	87.8	7.5	12.0	83.6	7.3	11.8
中位群	80.0	8.0	10.3	81.6	7.4	11.2
下位群	68.5	6.9	9.4	74.9	7.2	10.5

47

## 教員評価により3群に分割して の英作文分析

熟達度別の従属構造使用の変化



48



## 7. まとめ (結論)

- ・学習ポートフォリオを使用し、自己省察を行うことで、「内容」「正確さ」の向上が見られた。
- ・分析的ルーブリックを使用し、自己評価を繰り返すことで、教員評価との相関関係が強まる傾向が見られた。
- ・熟達度別に見ると、下位群の生徒の得点が大幅に上昇した。このことから、「書く」ことが苦手な生徒にとって、学習ポートフォリオを活用することが、英作文力向上につながるかもしれない。

49

## 7. まとめ (教育的示唆)

- ①「書く」活動の単発的な活動からの脱却  
→ポートフォリオを使用し、継続的な活動へ
- ②教員が自己省察の重要性を認識し、振り返りの時間を確保  
→教員の添削時間の削減・ルーブリックを使用しての自己評価の導入

50

## 8. 今後の課題

- ① ポートフォリオ使用の有無での比較
- ② 被験者を増やし長期的な調査
- ③ 「書く」活動以外でのポートフォリオの活用

51

## 引用文献

- Samntos, M. G. (1997). Portfolio assessment and the role of learner reflection. *English Teaching Forum*, 35, 10-15.
- Hamp-Lyons, L. & Condon, W. (2000). *Assessing the portfolio: Principles for practice, theory, and research*. Cresskill, NJ: Hampton Press.
- Hawkins, J. A. & Filipovic, L. (2012). *Criterial features in L2 English*. Cambridge: Cambridge University Press.
- ベネッセ教育総合研究所 (2016) 『中高の英語指導に関する実態調査2015 ダイジェスト版』
- 中竹真依子・櫻井千佳子 (2016) . 「英語教育における学習ポートフォリオの活用- 自律的学習者の育成に向けて-」 『武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要』6, 65-76.
- 中央教育審議会 (2016) . 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」
- 峯石緑 (2010) . 「学習者の自己省察・自律を促すポートフォリオ」小嶋英夫・尾関直子・廣森友人(編) 『成長する英語学習者—学習者要因と自律学習』(英語教育学大系第6巻, pp. 162-192) 大修館書店

52